

思い出ミュージアム（パネルを
つくって、案内する）

（ ）組 なまえ_____

領域・形態・時間	話すこと〔発表・やり取り〕 パネルづくり15分+案内20分×2時間
ねらい	いちばんの思い出をパネルにまとめ、案内役とお客さん役を交代しながら What's your best memory? のやり取りで伝え合う（単元ゴール）。

やり方 この流れでやってみよう

- 1

Choose your best memory. Any day is OK!

いちばんの思い出を1つ決める（行事でなくてよい。給食・休み時間もOK）
- 2

Make your panel. Write and draw.

下のパネルに3～4文を書き、その一場面の絵をかく
- 3

Guides, stand by your panel. Visitors, walk!

前半は半分が案内役、のこり半分がお客さん。お客さんは自由に見て回る
- 4

What's your best memory? — My best memory is

お客さんがたずね、案内役が答える。さいごは Wow! / Me, too! を返す
- 5

Change! Guides and visitors, swap.

5分たったら交代。ぜんぶで4人に案内できたら大成功

思い出パネル 3～4文と絵。このまま卒業前のろうか掲示になります

いちばんの思い出 My best memory is	_____
したこと① We went to	_____
したこと② We enjoyed	_____
気持ち It was	_____
その一場面の絵 写真はいりません	

「したこと」は①②のどちらか1つでもだいじょうぶ。給食や休み時間の思い出なら、We enjoyed だけでOK。

ことばバンク 選んで使おう（絵カードのことばも使えるよ）

思い出 (My best memory is のあと) : our school trip our sports day our music festival
our drama festival our field trip our art exhibition camping swimming
lunch time

学校みんなでした行事には our をつける。給食・休み時間などはそのままOK。

したこと (We went to のあと) : Kyoto the zoo the museum the mountains / (We enjoyed のあと) : singing dancing running swimming games lunch

気持ち (It was のあと) : fun exciting beautiful great delicious hard

exciting わくわくした / beautiful きれいだった / great さいこう / hard たいへんだった (It was hard, but fun! と続けてもいい)

お客さんのことば : What's your best memory? / What did you do? / How was it? / Wow! Nice! Really? / Me, too! / Thank you!

見に来てくれた人 案内したら、なまえを書いてもらおう (4人で大成功)

--	--	--	--

ルール

①パネルは学級のみなが読むもの。人がいやな気持ちになることは書かない ②お客さんはかならず質問を1つする (What did you do? / How was it?) ③案内役は絵を指さしてよい——ことばが止まってもだいじょうぶ

☆レベルアップ! パネルを見ないで案内できたら「ミュージアム・ガイド」。ガイドを2人組にすると、ことばに自信がない子も声を出しやすい。

先生へ (運用のコツ・中間指導)

- ・下書き (第4時) → 仕上げ (第5時) → 本番 (第6・7時) の3日がかかりで進める。パネルはグループの作品ではなく1人1枚の作品なので、つくる日をまとめると仕上がりが落ちて掲示に耐えなくなる
- ・◎第5時の見取り (知技) はパネルの文。My best memory is ~. と It was ~. の形が書けているかだけ見る
- ・中間指導は「質問を1つ足せた子」を1人だけ全体へ。案内の中身が一気に変わる
- ・パネルはそのまま保護者公開授業の展示・卒業前の掲示になる。学級と名前を書く位置を最初に指定しておくとき貼るときに困らない

中間指導の進行台本（第6時）

この紙は先生用（1部だけ）：主活動の20分を「1回目 → ことばの補給 → 2回目」のサンドイッチにする先生用の台本。1回目のできなかった質問・答えを、同じ20分のうちに「できた」に変える——時間は1分も足さない。

20分のサンドイッチ 第6時の主活動20分＝思い出ミュージアム①を「サンドイッチ」にする

分	やること	先生のうごき
0-7	ミュージアム1回目（半分が案内役）	お客さんは自由に回って質問を1つ。先生は「質問できずに帰ってきた子」を見つけておく
7-9	あつめる：聞きたかったこと・こまった質問	「日本語でOK」と先に宣言する。案内役とお客さんの両方から集める（3～4個で十分）
9-12	英語にする：下の補給表から黒板へ	近いものを書き写し、全員で2回ずつ声に出す（先生がその場で英語を作らなくてよい）
12-13	自分の質問にもどす	2回目にする質問を1つ決めて、となりに1回言えたら準備完了
13-20	ミュージアム2回目（役を交代）	「質問が返ってきて案内は完成」をもう一度言ってから。2回目は質問が必ず増える

ことばの補給表 「言いたかった」を、ここから黒板に書き写すだけ

言いたかったこと	こう言える	ひとこと
なつかしい！	Wow!	気持ちちは、あいづちにのせる
わたしもそれ好きだった！	Me, too!	あいづちの王様
楽しかったよね！	It was fun!	単元の文は、あいづちにもなる
どこに行ったんだっけ？	Where?	1語で質問になる
この絵は何？	What's this?	パネルの絵を指せば会話が始まる
（答えに）つまったら	（パネルを指して）Our school trip.	指さし＋パネルの1文で立派な答え
もっと聞きたい	Anything else?	取材をうながすことば（5年レストランから）
案内ありがとう！	Thank you! Nice!	ミュージアムの出口のあいさつ

表にないことばが出たら
「マラソン大会でくやしかった」のような気持ちのことばは、無理に英語にしない。「日本語で言ってから、パネルの絵を指そう」でいい——気持ちの英語は中学校でたっぷり出会う。まちがった英語をその場で作らないことがいちばん大事。

先生へ（この20分の勘どころ）
・この20分は主活動そのもの——時間は足さない。第7時のミュージアム②も、この台本と同じ進行で回せる
・行事でない思い出（給食・休み時間）を先生が先にほめると、パネルの多様性が守られる
・補給はお客さん側のことば——案内の3～4文はパネルにある。会話になるかは Where? と What's this? で決まる
・声に自信がない子はガイド2人組に（2枚目のレベルアップの通り）。先生役は頼まない